

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：32510

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2020

課題番号：19K23346

研究課題名（和文）日本で就職している元中国人留学生のキャリア形成：職業的アイデンティティに着目して

研究課題名（英文）Career Development of Former International Students from China Working in Japan: Their Vocational Identity Development

研究代表者

叶 尤奇 (Ye-Yuzawa, Youqi)

神田外語大学・外国語学部・講師

研究者番号：40851291

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、日本で働く元中国人留学生の職業的アイデンティティ・ステータスを明らかにし、彼・彼女らの職業的アイデンティティとキャリア・アウトカムとの関連を検討することである。日本で働く元中国人留学生を対象としたアンケート調査のデータを分析した結果、彼・彼女らの職業的アイデンティティ・ステータスは、達成型、拡散型、不確かなコミットメント形成型、探索的モラトリアム型、モラトリアム型、早期完了型に分類することができた。また、それぞれの職業的アイデンティティ・ステータスに置かれている元中国人留学生のキャリア満足度、ジョブ・パフォーマンス、年収、転職意思の度合いが異なっていることも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本で働く元留学生のキャリア形成に関する既存の研究では、彼・彼女らの職業的アイデンティティとキャリア発達との関連に着目するものが見られなかったが、本研究はその空白を埋めた。また、本研究を通じて、Porfeli et al. (2011)が開発した職業的アイデンティティ・ステータスの評価モデルは、日本で働く元中国人留学生に応用できることが実証された。さらに、日本で働く元中国人留学生の職業的アイデンティティのあり方を明らかにすることによって、日本で働く中国人元留学生のキャリア形成のプロセスをより深く理解することができ、彼・彼女らのキャリア発達の支援策を作成するための手がかりを考案したと考えている。

研究成果の概要（英文）： The present study examined the vocational identity of former international students from China working in Japan and clarified the links between vocational identity and career outcomes. The results of the questionnaire surveys revealed that six vocational identity statuses were derived: achieved, diffused, doubtful commitment making, searching moratorium, moratorium, and foreclosed. The findings also showed that their career outcomes in terms of career satisfaction, job performance, turnover intention, and yearly income differed by these six vocational identity statuses.

研究分野：異文化コミュニケーション

キーワード：職業的アイデンティティ キャリア発達 中国人元留学生 キャリア満足度

## 1. 研究開始当初の背景

近年、日本で働く外国人労働者が増加しており、2019年10月において1,658,804人に達して過去最高を更新した(厚生労働省, 2020)。それと同時に、外国人留学生の日本での就職率も徐々に上昇し、2018年度において全体の43%を占めることになった(一般財団法人日本国際協力センター, 2020)。しかしながら、日本において就職を希望する留学生のうち約半数が就職できていないことも現状として報告されている(文部科学省, 2016)。さらに、就職活動を乗り越え、日本での就職に至った外国人留学生であっても、数年以内に離職する者が多く、留学生の日本企業への定着率が低いことが指摘されている(DISCO, 2019; 島田・中原, 2016)。

これまで、元外国人留学生が日本で働く中、どのような困難に遭遇しているのか、それらの困難をどのように乗り越えて適応していくかについて研究が行われてきた。例えば、就職後の元外国人留学生は、日本語能力、職務内容、職場における人間関係とコミュニケーション、企業環境と制度という側面において困難を感じている(reviewed by 藤, 2016)。また、職場の上司の援助は、元外国人留学生の日本企業への適応を促進すると指摘されている(島田・中原, 2014)。職場内の援助のみならず、職場外の親族や友人からの援助も、彼・彼女らの職場への適応およびプロフェッショナル・キャリアの形成に肯定的な影響を与えていることが判明している(鍋島, 2016; 叶・根橋, 2018)。

上述の研究は、元外国人留学生の日本におけるキャリア形成の現状と問題を把握するものとして評価できるが、彼・彼女らの職業的アイデンティティに焦点を当てる研究が見られなかった。その一方で、職業的アイデンティティの発達は、生涯を通じての課題であり、個人のアイデンティティ全体の形成に大きく関わっている(Erikson, 1968; Skorikov & Vondracek, 1998, 2011)。また、職業的アイデンティティは、個人のキャリアの選択と形成ならびに入社後の組織適応に大きな影響を与えていることが実証されている(Hirschi, 2011; 児玉・深田, 2005; 狩野・出井・實金・中嶋・山口, 2015; Skorikov & Vondracek, 2011; 竹内・高橋, 2010)。したがって、日本で働く元外国人留学生のキャリア発達をより理解するために、彼・彼女らの職業的アイデンティティのあり方に注目する必要があるが見られる。なお、本研究では、日本で働く元中国人留学生に着目することにした。それは、彼・彼女らが日本で働く元外国人留学生の中で最も大きな割合を占めているためである(法務省入国管理局, 2019)。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本で就職している元中国人留学生の職業的アイデンティティ・ステータスを明らかにし、彼・彼女らの職業的アイデンティティ・ステータスとキャリア・アウトカムとの関連を検証することである。そこで、彼・彼女らの職業的アイデンティティを明らかにするために、Porfelli et al (2011)が開発した職業的アイデンティティ・ステータスの評価モデル(VISA)の中国版(Zhang et al., 2018)を用いた。また、キャリア・アウトカムは、キャリア満足度、ジョブ・パフォーマンス、年収、転職意思という4つの側面から測定した。

## 3. 研究の方法

予備調査では、日本で働く元中国人留学生133名を対象としてアンケート調査を実施し、職業的アイデンティティ・ステータスの評価モデル(VISA)の中国語版(Zhang et al., 2018)、キ

キャリア・満足度( Greenhaus et al., 1990 )、ジョブ・パフォーマンス( Motowidlo & Scotter, 1994 )、転職意思( Konovsky & Cropanzano, 1991 )、年収という諸項目は、本研究の調査対象者に応用できるかを検証した。その後、予備調査の結果に基づき、質問項目を調整したうえで、日本で働く元中国人留学生 237 名を対象とした本調査( アンケート調査 )を実施した。

#### 4 . 研究成果

予備調査のデータを分析した結果、仕事の継続意思、パフォーマンス、キャリア満足度のクロンバックの係数が高く、それぞれの項目の内的整合性が認められた。それに対し、職業的アイデンティティの各要素のクロンバックの係数がやや低かったため、質問項目を調整する必要があるが見られた。そのため、本調査を実施する前、職業的アイデンティティ・ステータスの評価モデルの中国語版の質問項目に関して、日本で働く中国人社員 10 名からフィードバックをもらった。それをもとに、原文の意味を損なわない範囲で、中国語版の質問項目を微調整した。

微調整された中国語版の質問項目を用いて、日本で働く元中国人留学生 237 名を対象として、本調査を実施した。これらのデータを分析した結果、日本で働く中国人元留学生の職業的アイデンティティ・ステータスは、達成型、拡散型、不確かなコミットメント形成型、探索的モラトリアム型、モラトリアム型、早期完了型に分類することができた。また、職業的アイデンティティとキャリア・アウトカムとの関連を分析した結果、中国人元留学生のうち、拡散型とモラトリアム型に該当する者はキャリア満足度、ジョブ・パフォーマンス、年収が比較的低い一方で、転職意思が高いことが明らかになった。それに対し、職業的アイデンティティが達成型に至った者のキャリア満足度、ジョブ・パフォーマンス、年収は高く、転職意思も高かった。さらに、コミットメント形成、コミットメントとの同一化、広い探求、自己不信、コミットメントの柔軟性という職業的アイデンティティの5つ下位要素は、キャリア満足度、転職意思、ジョブ・パフォーマンス、年収に影響を与えていることが実証された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Youqi Ye-Youzawa	4. 巻 24
2. 論文標題 Vocational Identity of Former International Students from China Working in Japan and its Relationships with Career Outcomes	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 SIETAR JAPAN	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Youqi Ye-Yuzawa
2. 発表標題 Vocational Identity of Former International Students from China Working in Japan
3. 学会等名 International Association for Cross-Cultural Psychology（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 叶尤奇
2. 発表標題 日本で働く元中国人留学生の職業的アイデンティティとキャリア・アウトカムとの関連—日本人との比較—
3. 学会等名 異文化間教育学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------